

丸亀城管理室だより No.16

回収石の数が10,000個を超えました

8月10日に回収石の数がとうとう10,000個を超えました。その後も数は増え続け、11月18日時点で11,342個回収しています。当初回収予定だった数が6,000個なので、予定の2倍近くの石を回収していることとなります。帯曲輪西面下方では、グラウンドの座席背後の園路が4年ぶりに姿を現すなど、崩落土の撤去や崩落石の回収はようやく終わりが見えてきました。



【8月10日時点の回収数】【土砂から出てきた園路】



壁の損傷具合から、崩落の凄まじさが分かります。

新石材候補地の視察を行っています

丸亀城管理室では、割れてしまい元の場所へ戻せない石を新しく調達するため、これまでに小豆島や広島などの備讃瀬戸の島々の採石場の視察に行ってきました。8月22日には、新たな候補地として北木島(岡山県笠岡市)の採石場の視察を行いました。

北木島は、小豆島や本島、広島などと同じく、石の島として日本遺産に認定されています。北木島の石は、大阪城の桜門をはじめ、靖国神社の石鳥居や日本銀行本店本館などの有名な建造物に使用されており、大きく強固で良質であるという特徴を有し、量も多く採掘されています。

石材選定には、色、強度、吸水率等の基準に加え、必要量が確保できるかどうかも重要です。また、新石材の購入の際には、必要な時期や量、形状、費用などの様々な調整も必要になります。今後数百年間残るような石垣にするために、慎重に検討していきたいと思います。



大きな胴木が出現！①

9月28日に、帯曲輪西面(H面)の根切り溝内の最下段の石材7石が回収されました。その最下段の石材の真下から、直径20cmほどの丸太状の胴木が出てきました。丸太状の形が残った胴木が出てくることは丸亀城では珍しく、地中深くの湿潤な環境にあったため保存状態が良いと思われます。



ところどころ枝の根元がそのまま付いており、あまり手を加えられていないことがわかります。

構造はシンプルで、「埋没石垣1」の胴木のように2本平行に並んでいたり(「管理室だよりNo.6」参照)、三の丸BC面の胴木のように、加工した築石の中に入れられたりしていた(「管理室だよりNo.11」参照)わけではありません。この胴木の上に乗っていたのは、石材の前寄り部分だけで、胴木が及んでいない部分は、円い礫石が敷き詰められた上に載っていました。同じ根切り溝内で工作方法が違う理由は不明ですが、この部分の構造はとても簡略化されているようです。

大きな胴木が出現！②

10月に入ってからは、三の丸石垣南西面(CD面)のV字状に並んだ根石の根切り溝内の、崩落による影響が見られる部分で、構造調査が行われています。そのV字状溝内の石材を取り外すと、最大直径45cmもの大木を使った胴木の残骸が出てきました。この大木は、皮や枝の付け根が残ったままだったほか、ノコギリで横方向にひいたような跡も見られました。

胴木は、2本の丸太が平行する形状でした。三の丸石垣の2本の胴木と、上記の帯曲輪石垣で見られたシンプルな胴木との違いなどについては、今後さらなる調査が必要となります。



【CD面南西の胴木】



【CD面南東の胴木】

D面の追加解体工事も進んでいます

6月8日から始まった三の丸南面（D面）の追加解体は、1段ずつ石が取り外されており、11月7日には24段目の取外しが完了しました。現在までの解体の中で、特に興味深い発見をご紹介します。

① 7段目の築石のケビキ線

7段目の築石に、水平方向のケビキ線が複数の築石を貫いて引かれているのが発見されました。このようなお城の石垣中の複数の石材にまたがる水平ケビキ線は非常に珍しいもので、何らかの高さの基準を設定するためのものだと思います。下の8段目の築石は7段目に比べると小型であったことから、石垣の最上部の高さを合わせたり、嵩上げに関するものだったのかもしれませんが。



② 13段目の飾り石

13段目の石と石の間の前に、小さな石が置かれていました。地上11mというかなり高い場所なので、石垣構築後に人が置いたとは考えにくく、風化具合から、古い時期から同じ位置にあったと考えられます。石の隙間を隠すように置かれており、このような石材は「飾り石」と呼ばれることがあります。過去の地震や台風、そして平成30年度の崩落の時にも落ちなかったのは、すごいことです。



「絶対に落ちない石」として、受験などにご利益がありそうですね。

親子向け現場説明会を開催

丸亀市では、毎年10月の第3月曜日を「丸亀子どもデー」として、市立の小・中学校、幼稚園、こども園（一部）では学校・園休業日となります。これは、子どもの学校・園休業日に合わせて親が有給休暇を取得することで、大人と子供と一緒にまとまった休日を過ごすための取り組みで、市内ではこの日に合わせて様々なイベントが催されています。

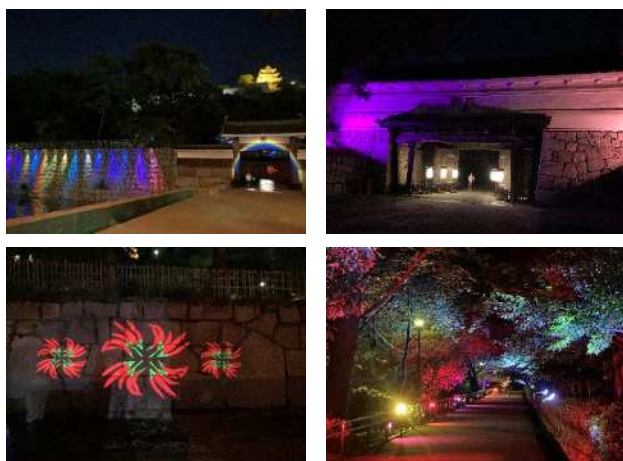
石垣復旧現場では、10月17日に「丸亀城 石垣復旧工事現場に入ってみよう！」と題し、初の親子向け現場説明会を開催しました。当日はあいにく

の雨模様でしたが、5組12人にご参加いただきました。



丸亀城キャッスルロード 2022 開催

9月10日～11月23日まで、丸亀市観光協会が主催となり、「丸亀城キャッスルロード 2022」が開催されました。この催しは毎年開催されているもので、石垣や大手門や見返り坂などが幻想的にライトアップされました。また、天守も土・日・祝に限り夜間特別開館され、多くの方にご来城いただきました。



お濠のハクチョウについて

11月7日に、内濠で飼育していたハクチョウ1羽が亡くなっているのが発見され、その後の検査で鳥インフルエンザ陽性であることが分かりました。他のハクチョウ3羽とコクチョウ1羽は、堀端に隔離小屋を建てその中で飼育していましたが、ハクチョウ3羽が小屋内に侵入した野犬に襲われて死亡するという、大変痛ましい事件が発生しました。このため、コクチョウ1羽についてはお濠の方が安全だと判断し、小屋から放して飼育しています。

丸亀城内では普段あまり野犬を見かけることはありませんが、捕獲箱を設置するなどの野犬対策を行っております。

また、鳥インフルエンザについても、堀端への立ち入り禁止措置や消毒措置などの対策を行っております。城内ご利用の際は、感染拡大防止のため、野鳥や野鳥のフンを見かけても近づかないようお願いいたします。

作成：丸亀市教育委員会 文化財保存活用課
丸亀城管理室 TEL0877-23-2107